



感染対策の基本、手指衛生は遵守できていますか？

医療関連感染の多くが手を介して伝播する接触感染といわれています。新型コロナウイルス感染においても、接触感染が感染経路として一番多いと考えられています。院内感染対策において手指衛生はとても重要で、WHO では、毎年5月5日を手指衛生の日としてグローバルキャンペーンを行っています。今年のテーマは「**清潔なケアはあなたの手から**」です。病原体から自分を守り、院内・施設内で伝播させないために一人一人が手指衛生を遵守することが大切です。

手指衛生の5つのタイミング

- 1 患者に触れる前
- 2 清潔・無菌操作の手前
- 3 体液に曝露された可能性のある場合
- 4 患者に触れた後
- 5 患者周辺の物品に触れた後



手指衛生が必要な5つのタイミングが言えますか？

「医療現場における手指衛生に関する WHO ガイドライン」では、手指衛生が必要な5つのタイミングを推奨しています。単に手洗いや手指消毒を行うのではなく5つのタイミングで行うことが重要です。

電子カルテを導入している病院が多くなっています。パソコン使用前後の手指衛生も忘れないようにしましょう。

手指衛生で不十分になりやすい部分（図1）

指先や親指（濃いピンク）は最も不十分になりやすい部分です。指の間や手首（薄いピンク）も不十分になりやすい部分なので気を付けましょう。

速乾性アルコール製剤による手指消毒を行うときはよく乾くまで擦り込みましょう。



図1

手袋着用前後の手指衛生は行っていますか？

「医療現場における手指衛生のための CDC ガイドライン」では、手袋を外したあとの手指衛生の必要性について勧告されています。

【出典・参考資料】

「医療現場における手指衛生に関する WHO ガイドライン」

「医療現場における手指衛生のための CDC ガイドライン」

一般社団法人 日本環境感染学会